

歯ブラシの安全対策に関する取組状況について

1 提言後のこれまでの報告

本テーマの取組状況について、東京都（以下「都」とする。）は東京都商品等安全対策協議会（以下「協議会」とする。）において、以下のとおり報告を行っている。

- 平成 29 年度報告（2018 年 2 月 15 日）
 - 業界団体の報告
- 平成 30 年度報告（2019 年 2 月 14 日）
 - 事故状況（東京消防庁救急搬送事例）
 - 業界団体の取組

2 事故状況

都は事故状況把握のため、東京消防庁救急搬送事例、医療機関ネットワーク¹受診事例を収集した。その結果、2019 年から 2021 年まで²に、歯ブラシによる受傷等により、救急搬送や受診に至った 5 歳以下の事例は 152 件³であった。うち中等症⁴以上の事例は 24 件であった。

表 1-1 2019 年から 2021 年までの事故件数

	救急搬送・受診件数
東京消防庁救急搬送事例	80 (9)
医療機関ネットワーク受診事例	72 (15)
合計	152 (24)

(注) カッコ内は中等症以上の件数

¹ 消費者庁と独立行政法人国民生活センターは、2010 年から共同事業として、同種・類似の事故の再発を防止するため、全国 30 病院（2021 年 10 月時点）が参画し、消費生活において生命・身体に被害を生ずる事故に遭い医療機関を受診した患者から、消費者からの相談になりにくい不注意や誤った使い方も含めて事故の詳細情報等を収集する医療機関ネットワーク事業を実施している。

² 東京消防庁救急搬送事例は 2019 年 1 月～2020 年 12 月の事例である。医療機関ネットワーク受診事例については 2019 年 4 月～2021 年 8 月に通知された事例である。

³ 搬送事例と受診事例は、一部重複する可能性がある（以下同じ）。

⁴ 中等症とは、生命の危険はないが、入院を要するものである（傷病者重症度分類表による）。

東京消防庁救急搬送事例の件数の推移を表 1-2 に示す。

表 1-2 事故件数の推移（東京消防庁救急搬送事例）

発生年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
軽症	39	33	36	33	37	39	35	28	32	39
中等症	6	9	2	6	9	4	4	4	4	5
重症	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0
合計	45	44	38	40	46	43	39	33	36	44

年齢別の発生状況を表 1-3、表 1-4 に示す。1 歳が最も多く、1 歳から 3 歳までを中心に起こっているが、4 歳以上の事故もあり、中には中等症以上のケースもあった。

表 1-3 年齢別の発生状況（東京消防庁救急搬送事例）

年齢	～5 か月	6 か月～	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合計(人)
軽症	0	3	34	9	19	3	3	71
中等症	0	1	3	3	1	1	0	9
合計(人)	0	4	37	12	20	4	3	80
割合(%)	0.0%	5.0%	46.3%	15.0%	25.0%	5.0%	3.8%	

表 1-4 年齢別の発生状況（医療機関ネットワーク受診事例）

年齢	～5 か月	6 か月～	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合計(人)
軽症	0	1	22	14	13	5	2	57
中等症	0	0	2	4	4	1	3	14
重症 ⁵	0	0	0	0	0	0	1	1
合計(人)	0	1	24	18	17	6	6	72
割合(%)	0.0%	1.4%	33.3%	25.0%	23.6%	8.3%	8.3%	

都が把握した事故事例のうち、中等症を中心に事例の一部を、表 1-5、表 1-6 に示す。

表 1-5 東京消防庁救急搬送事例

No.	事故（危害）の内容
1	歯ブラシを口に咥えたまま、前に転倒し歯ブラシが口の中に刺さった。
2	自宅にて横になった家族の足の上で歯磨きをしていたところ、前のめりに転倒し、咥えていた歯ブラシで口腔内を受傷。
3	高さ約 40 cm のソファ上で歯ブラシを咥えたままハイハイしていた。目を離れた際、ウレタンマットを敷いたフローリングへ転落し、口腔内から出血。
4	自宅のソファ上で歯ブラシを口にくわえた状態で転がった時に喉を受傷。
5	洗面所で一人で歯磨きをしていたが、椅子から転倒し、鼻出血と口腔内出血があった。

⁵ 重症とは、生命の危険が強いと認められたものである（傷病者重症度分類表による）。

No.	事故（危害）の内容
6	自宅で歯磨き中に家族とふざけていたところ転倒し、歯ブラシで口腔内を受傷。
7	自宅で歯磨きをしていた際に、転倒。啜っていた歯ブラシが口腔内の左奥歯付近に刺さり受傷。
8	自宅内で歯磨きをしながら歩いている最中に誤って転倒し、歯ブラシが二つに折れ、先端部分が右口腔壁側に刺さった。
9	自宅の洗面所において、踏み台に立って歯を磨いており、歯ブラシを洗面台に戻そうとした際に、踏み台から足を踏み外し前のめりに倒れ、下顎部を洗面台にぶつけ、舌を受傷。
10	自宅で、子供用の歯ブラシを持って、子供用の台に乗ろうとして前のめりに転倒し、口腔内から少し出血。

表 1-6 医療機関ネットワーク受診事例

No.	発生年	年齢性別	事故（危害）の内容	
1	2019年	2歳3か月 男児	中等症	リビングのソファで、児は兄弟と一緒に座って歯みがきをしていた。保護者が仕上げ磨きの声を掛けたところ、ふたりは競い合っており、児が歯ブラシをくわえたままソファから転落した。床に置いてあったクッションに顔からダイブするような形になった。咽頭損傷。2日間入院、抗菌薬治療。外来で内服治療を継続し、受傷から4日目に外来再受診とした。
2	2019年	1歳8か月 男児	中等症	歯ブラシをくわえたまま、座椅子に寝そべっていた兄弟に右から乗りかかり、兄弟が手でどかし、左側の床に歯ブラシから落ちた。口腔内に歯ブラシが刺さったままだったが、保護者が歯ブラシを抜いて受診した。歯ブラシの先端は血液あり。左軟口蓋、中咽頭後壁挫創。抗菌薬治療、入院3日間。
3	2019年	4歳7か月 男児	中等症	ベッドの上で歯ブラシをくわえたままで転倒。微熱と食事摂取不良となり、耳鼻科で薬を処方されたが、症状改善なし。CTにて扁桃周囲膿瘍と診断し、緊急手術、入院6日間。
4	2019年	5歳0か月 男児	中等症	大人用歯ブラシを啜えたまま大人用ベッドから転落（高さ30cm）。口の中から出血あり。歯ブラシ破損。右軟口蓋に深め穴あり。来院前少し流涎あり。抗菌薬治療、入院7日間。
5	2019年	5歳2か月 男児	中等症	歯ブラシは保護者が仕上げ歯磨きに使用する歯ブラシで児は最近自分で磨くと言っていた。児の泣き声で保護者が見に行くと、児は床に座り、歯ブラシがソファに落ちていた。口内を確認し穴があると気づいた。5日間入院。歯ブラシは保護者が仕上げ歯磨きに使用する歯ブラシで児は最近自分で磨くと言っていた。抗菌薬治療、5日間入院。
6	2019年	3歳6か月 男児	中等症	歯ブラシを啜えて、走った時に転んだ。血がはすぐに止まったが、翌日右の頬が腫れているため、受診。右側顎下部に腫脹、右側口腔底に長径5mmの裂創。数日後、腫脹と発熱があり、膿瘍形成を認め入院。

No.	発生年	年齢性別	事故（危害）の内容	
7	2019年	2歳8か月 女児	中等症	歯ブラシをくわえたまま、ソファから転落した。口腔内より多量の出血あり。右側頬粘膜に1.5cmの裂創あり。頬脂肪体の露出あり。
8	2019年	5歳6か月 男児	中等症	朝の歯磨き中、ジャンプソファに顔面をつき受傷。保護者は、口腔内の挫創に気づかず、保育園へ通園して昼食の際に痛みを訴えて気づかれた。出血もあり、痛みで大きな声が出ない。左咽頭部に深い挫創あり。抗菌薬治療、4日間入院。
9	2019年	3歳2か月 男児	中等症	歯ブラシを咥えたままつまづき転倒。口腔内から出血。口腔内から出血が続いていたが受診時にはほぼ止血していた。翌日、朝からボーっとした感じで流涎あり、発熱あり。5日間入院。
10	2019年	3歳2か月 女児	中等症	歯磨き中に兄弟とじゃれ合い、歯ブラシが入ったまま転倒した。口に歯ブラシが入った状態でうつ伏せになっていた。口腔内上に出血あり。CT検査で頸部動脈にそって空気を認め、深い損傷の可能性があり、集中治療室入院。抗菌薬治療、入院6日間。
11	2019年	3歳3か月 男児	中等症	ベッドの近くで兄と兄弟に歯ブラシを渡した。兄弟はベッドの上で足を伸ばして座り、兄は歯ブラシを咥えたままベッドの上で飛び跳ねていた。兄弟の足に引っかかって兄が転倒し、口腔内に歯ブラシが刺さって、うつぶせになっていた。口から血は出ていたが止血できた。左口腔に1cmの挫創あり。抗菌薬治療、5日間入院。
12	2020年	1歳10か月 男児	中等症	歯ブラシをくわえて兄が踊っていて転倒し、歯ブラシが喉に当たった。刺さってはならず、歯茎が血がでていた。その後発熱、右頸部腫脹あり他院で咽頭部膿瘍と診断されて当院へ紹介受診した。抗菌薬治療。9日間入院。自然排膿されたため手術は不要。
13	2020年	5歳5か月 女児	重症	歯ブラシをくわえて室内を歩いていて転倒した。歯ブラシの損傷はなかったが、血液がついていた。受傷から数時間後に痛みが悪化したため医療機関を受診。頸部腫脹と発熱を認めた。左頸動脈損傷の疑い、気管損傷のため人工呼吸管理、集中治療室入院。抗菌薬治療。その後悪化せず3日目に人工呼吸離脱、10日間抗菌薬治療継続して退院した。
14	2021年	2歳7か月 男児	中等症	自分で歯磨きをしている際に膝立ちの状態から床に前方に倒れた。倒れた直後は、歯ブラシを咥えた状態だった。口腔内から少量出血あり。

3 業界団体の取組状況

(1) 歯ブラシの喉突き防止の安全対策の強化

全日本ブラシ工業協同組合からは、「平成 29 年 5 月 19 日付全日本ブラシ工業協同組合通知「子供用歯ブラシの安全対策について」での報告の通り行っている。」との回答があった。

本報告では、歯ブラシのパッケージの注意表記の強化と表示事項の改善として、注意喚起文と注意喚起を意味するピクトグラムを表記することとしており、各組合員企業は、パッケージを更新するときから実施するとしている。また同日付で、組合員向けに同内容の通知を発信し、各企業は通知を基に実施している。

ライオン株式会社からは、以下の回答があった。

安全面を強化した製品の拡充、親の見守りの重要性に関する情報を子供のオーラルケアへの意識が高まる健診等での継続発信、子供のオーラルケアに関する悩みを解決する消費者キャンペーンでの注意喚起等、多面的に展開している。

- ・2017年に安全面に配慮した製品「クリニカ Kid's 歯ブラシ」を上市し、販売を継続している。また、消費者の歯ブラシに関する指導を受ける機会として、歯科医院でのブラッシング指導に着眼し、歯科専門家が安全確保に向けた重要性の説明と、喉突き防止に有用な製品紹介をすることが安全対策に効果を発揮すると考え、歯科ルート向けに同様の製品を子会社のライオン歯科材(株)から上市している。

(2019年4月発売、図1)



図1. EX kodomo F

- ・ライオン歯科材(株)から上市した、より安全面に配慮した製品技術を歯科医院向けの学会でのセミナー等を通して、歯科専門家への認知拡大と、消費者への伝達の促進を図っている。
- ・当社品子供用歯ブラシの裏面表示に、「注意喚起表示」を徹底している。尚、製品裏面の「注意喚起表示」要素は当社の普及啓発活動でも共通使用し、消費者に多様な接点で複数回接触させ、記憶してもらうよう努めている。(図2)



図2 啓発活動での注意喚起表示例(イラスト及び文章内容は製品と同様)

サンスター株式会社からは、以下の回答があった。

- ・商品の安全対策(ネック部への柔軟性付与や喉付防止器具の装着)と刷掃性(口内のプラークを除去し、むし歯などを予防する)はトレードオフの関係にあり、両立させることは難しい、と考えている。そのため、刷掃性を重視した商品は従来どおり販売を継続

し、並行して、安全対策を重視した商品の開発をすすめているが、安全性対策を講ずるための既出願特許の回避を含めた技術検討を続けている段階である。

- ・歯ブラシのパッケージへの注意喚起による啓発を行っている。具体的にはドゥークリアこどもハブラシにおいて、注意喚起の文やイラストを追記し、お客様に伝わりやすくなるよう、工夫しながら表記している。
- ・今後は安全対策を講じた商品開発を進めながら、既存の販売している商品については引き続きパッケージやカタログによる注意喚起、また歯科医院での患者様向けリーフレットにも記載を検討し、消費者への啓発活動についても推進していく予定である。

一般社団法人日本チェーンドラッグストア協会からは、「曲がる歯ブラシ、のど突き防止カバーのある歯ブラシ等、安全性の高い商品の提案、販売を行う。特許の兼ね合いもありプライベートブランド商品に関しては通常の形態の歯ブラシとなるので、先ずは、歯ブラシ事故防止の注意喚起を啓発する。」との回答があった。

(2) 相談窓口等の情報収集と事故情報データ等の活用

全日本ブラシ工業協同組合からは、「各組合員にて対応をお願いしている。」との回答であった。

一般社団法人日本チェーンドラッグストア協会からは、「各ドラッグストアにおいては、薬剤師・登録販売者等が消費者の直接の相談窓口である。協会においては、日本チェーンストアドラッグ協会（JACDS）のホームページ等で、「子供に対する歯ブラシの安全対策」の啓発活動を行う。事故情報データの活用については、消防庁等のデータを参考に、必要であれば JACDS から各企業に連絡等、周知徹底をする。」との回答があった。

(3) 消費者への普及啓発

全日本ブラシ工業協同組合からは、「喉突き事故の多発している状況を受け、6月4日から10日までの「歯と口の健康週間」にあたり、消費者庁が安全対策の現状についてプレスリリースする際、安全対策済みの歯ブラシの販売開始時期等の情報及び安全対策を講じた歯ブラシのサンプルを数種類提供した」との回答があった。

消費者庁「子どもの歯磨き中の喉突き事故などに気を付けましょう！」（令和3年6月2日）
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_050/assets/consumer_safety_cms204_210602_01.pdf

ライオン株式会社からは、以下の回答があった。

- ・1歳6か月児健康診査にて、「子供の成長に応じた適切な歯磨き行動・喉突き事故防止に向けた親の見守りの重要性」を理解、浸透させるリーフレットを無料配布している（図3）。
- ・歯科医院、行政と連携し「子供の歯磨き習慣形成・喉突き事故防止に向けた親の見守りの重要性」の指導、伝達に有用な「啓発冊子」を無料配布している（図4）。
- ・2017年に上市した「クリニカ Kid's 歯ブラシ」の認知率は、安全要素を主訴求とした広告施策により、2017年時と比較して拡大しており、今後も認知拡大に努めていく。（当社調べ、2021年5月時点）
- ・2017年の「クリニカ Kid's 歯ブラシ」発売以降は、子供の喉突きや転倒に関する当社への消費者からの申し出はない。（2021年12月28日時点）



図3 リーフレット 図4 啓発冊子

サンスター株式会社からは、「サンスター財団における口腔保健活動を通じて、幼稚園や保育園でのブラッシング指導時には、ハブラシを口に入れたまま歩かないように伝えることや、保護者には喉突き事故事例を踏まえた注意喚起を行うなど、消費者と直接コミュニケーションを図るところでも、啓発活動を推進している。」との回答があった。

日本チェーンドラッグストア協会からは、「直接、消費者と相談、接客をする薬剤師・登録販売者等がわかりやすく啓発する。登録販売者に、より「子供に対する歯ブラシの安全対策」の啓発の必要性を意識させるため、日本チェーンストアドラッグ協会内の登録販売者委員会において「登録販売者の日」（10月6日）（一般社団法人 日本記念日協会）を認定し、東京都に限らず、全国的に、登録販売者として「子供に対する歯ブラシの安全対策」の啓発を行うことを宣言する。」との回答があった。

日本小児歯科学会では、普及啓発資料の更新や寄稿について以下の回答があった。

- ・日本小児歯科学会「家族みんな歯みがき習慣」裏面の歯みがき事故について刷新。
https://www.jspd.or.jp/download_general/
- ・日本歯科医師会雑誌 72 巻 11 号(2021年2月)「子供に対する歯みがき時の安全対策～歯ブラシ事故から子供たちを守るために～」学会副理事長 早川龍著
- ・「めばえ」小学館 2021年12月号特集「親子で歯みがきルーティーン」
学会常務理事 浜野美幸著
- ・ライオン歯科材株式会社「歯ブラシ事故防止リーフレット」早川龍著
- ・消費者庁「子どもの歯磨き中の喉突き事故などに気を付けましょう！」（2021年6月2日）別添7ページを加筆
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_050/assets/consumer_safety_cms204_210602_01.pdf

(4) 安全対策を進める上での課題等

全日本ブラシ工業協同組合からは、「子供の保護者の意識改革が課題である」との回答があった。

ライオン株式会社からは、「啓発活動、技術開発を継続して進めており、今後もしっかりと継続することが重要であると考えている。」との回答があった。

サンスター株式会社からは、「商品のスペックとして商品に安全対策を盛り込んだ場合、保護者の方が商品のスペックを過信し注意を怠ることが懸念点としてあげられる。そのため、メーカーが保証すべき「安全性」と歯ブラシの機能のバランスが課題となっている。」との回答があった。

日本小児歯科学会からは、「過去の啓発情報が多少なりと広がりを見せたのか、執筆の機会、講演の機会も頂くようになった。コロナの影響で理事会や学会大会がリモートになり、指導的立場の理事や臨床現場の歯科医師への資料配布の機会を失っている。引き続き内向きの啓発も大切にしたいと考えている。」との回答があった。

4 都の取組

事故状況を注視しつつ、ウェブサイトやSNSで消費者へ注意喚起を継続している。また、事故防止啓発リーフレット「乳幼児の歯みがき中の喉突き事故に注意！」を子育て世代向けのイベントにおいて配布を行ったり、歯科検診などでの配布用として、保健所等に、提供している。

さらに、平成28年度に協議会で行った消費者へのアンケート（以後「前回調査」とする。）の内容をもとに、今回消費者に対し、子供の歯ブラシの使用実態に関するアンケート調査を行ったので、その概要を示す。

<アンケート調査結果の概要⁶>

東京都に在住し、1歳から未就学児までの歯みがきを始めている子供と同居する20歳以上の男女1,000人を対象にインターネットアンケート調査を行った。

① 子供の歯みがきの方法について

- ・子供の歯みがきの方法は、「子供が一人みがきをした後、保護者による子供の歯みがき（仕上げみがき）をしている」が66.5%(665人)と最も高く、次いで「保護者による子供の歯みがきのみ」が28.7%(287人)であった。
- ・保護者による子供の歯みがき（以後、「仕上げみがき」とする。）に使用する歯ブラシは、「子供と同じ歯ブラシを使用している」が65.6%で、前回調査の77.9%から12.3ポイントの減少であった。

⁶ 1歳未満の子供とも同居していたり、子供が1歳未満だった時の経験も含むため、「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」事例には0歳児の事例も含まれる。

② 使用している歯ブラシについて

- ・使用する歯ブラシの種類は、子供の一人みがき（以後、「一人みがき」とする。）は「通常タイプ」が 72.1%と最も高く、仕上げみがきでは、「通常タイプ」が 53.3%、次いで「仕上げ用」が 27.9%であった。
- ・歯ブラシの購入場所は、「薬局・ドラッグストア」が 65.7%と最も高かった。「ディスカウントストア・スーパーマーケット」は 15.4%で、前回調査の 29.0%から 13.6 ポイントの減少であった。

③ 子供の歯みがきの状況

- ・歯みがきの頻度は、一人みがきで「一日 3 回以上」は 8.3%、「一日 2 回」は 45.2%、「一日 1 回」は 41.5%であった。仕上げみがきでは、「一日 3 回以上」は 5.0%、「一日 2 回」は 34.9%、「一日 1 回」は 56.5%であった。
- ・歯みがきをする場所は、一人みがきでは「リビング」が 67.5%と最も高く、次いで「洗面所」が 42.2%であった。仕上げみがきでは、「リビング」が 75.4%と最も高く、次いで「洗面所」が 27.9%であった。
- ・一人みがき時の姿勢は、「床に立って」が 40.7%と最も高く、次いで「床に座って」が 37.0%、「ソファ・椅子に座って」が 21.6%であった。
- ・子供の歯みがきをする時は、「必ず保護者が付き添っている」が 55.0%と最も高く、次いで「たまに保護者が付き添っている」が 26.9%であった。
- ・仕上げみがき時の姿勢は、「保護者の膝の上に乗せて、頭が動かないようにして」が 47.5%と最も高く、次いで「子供を床やベッドなどに寝かせて」が 38.1%であった。
- ・歯みがきにかかる時間は、一人みがきは「1 分」が 27.6%と最も高く、次いで「2 分」が 25.4%であった。仕上げみがきでは、「2 分」が 33.7%と最も高く、次いで「1 分」が 26.1%であった。
- ・子供が歯みがき時の状況は、「いつも動き回る」は 24.7%、「ときどき動き回る」は 33.7%、「たまに動き回ることがある」は 24.0%、「動き回ることはない」は 17.7%であった。

- ・安全面について行っている・気をつけていることは、「歯みがき中に子供を歩かせない」が 51.8%と最も高かった。また、「安全に配慮された歯ブラシを使っている」は 25.3%で、前回調査の 13.1%から 12.2 ポイントの大きな増加であった。「歯ブラシを子供の手の届くところに置きっぱなしにしない」は 23.1%であった（図 5）。

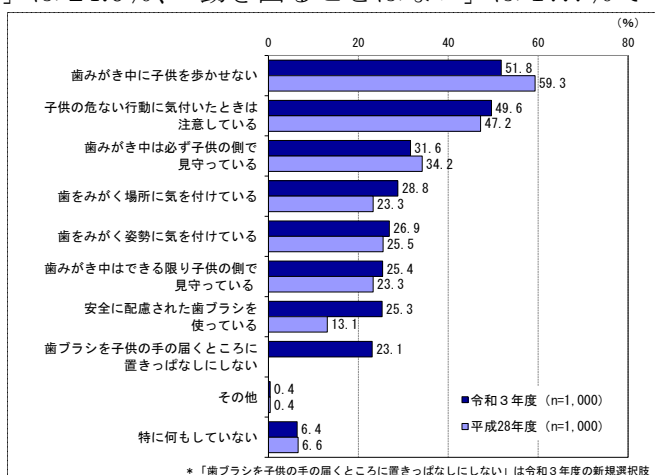


図 5 安全面で行っている・気をつけていること

- ・歯みがきの習慣で行っている・気をつけていることは、「食事後など、決まった時間に歯をみがく」が49.6%と最も高く、次いで「家族と一緒に歯をみがく」が28.8%、「子供の好きなキャラクターの歯みがきグッズを使う」が17.5%であった（図6）。

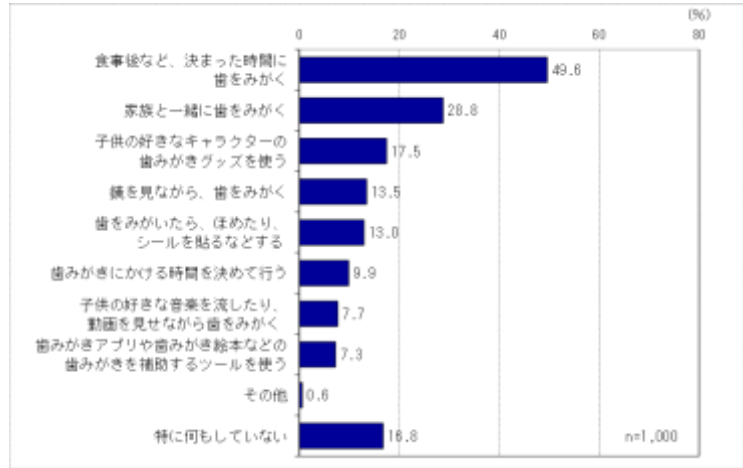


図6 歯みがきの習慣で行っている・気をつけていること

④ 歯ブラシによるヒヤリ・ハット及び危害経験

- ・歯ブラシによるヒヤリ・ハット及び危害経験の「経験あり（子供の一人みがき）」と「経験あり（保護者による歯みがき）」を合わせると19.6%（196人）であった。
- ・子供の年齢は、「2歳0～5か月」が19.9%と最も高く、次いで「3歳0～5か月」が15.8%であった（図7）。
- ・発生場所は、「自宅のリビング」が60.7%と最も高く、次いで「自宅の洗面所」が21.4%であった。
- ・発生時の状況は、「転んだ（ぶつかるなどして、転んだケースも含む）」が45.9%と最も高く、次いで「物にぶつかった」が23.0%であった（図8）。

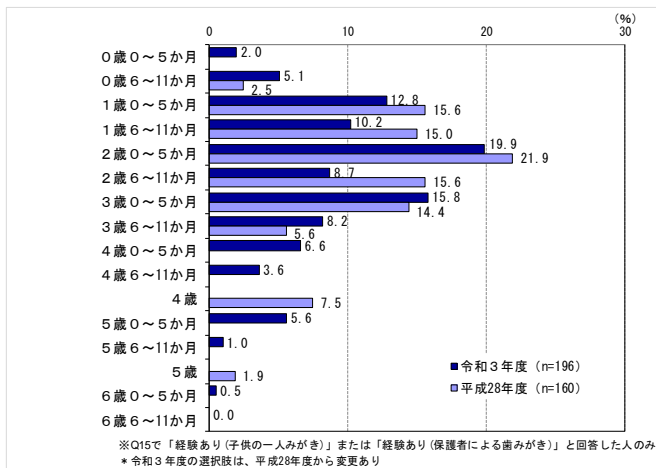


図7 ヒヤリ・ハット及び危害経験時の年齢

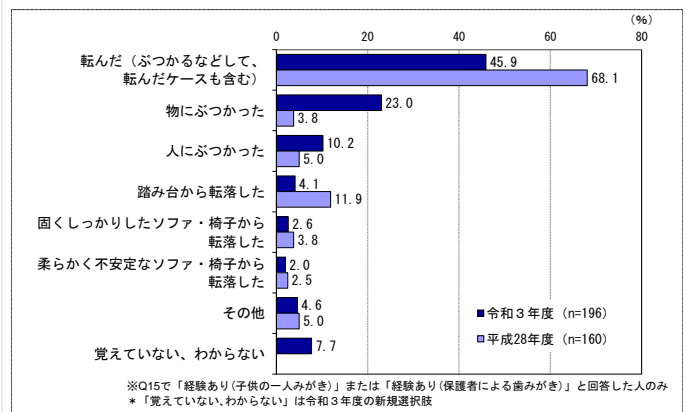


図8 発生時の状況

- ・ケガの程度は、「ケガをした（「ケガをして入院した」、「ケガをして通院した」、「ケガをして病院へ行った（入院・通院を除く）」、「ケガをしたが病院には行かなかった」の合計）と回答した割合は20.9%であった。
- ・ケガの状況は、「歯ブラシが口の中に刺さった」が13.8%で、ケガをした回答を合計すると42.4%であった。また「歯ブラシが口の中に当たったが、傷はできず、内出血や腫れるなどもなかった」が53.6%と最も高かった。

- ・使用していた歯ブラシの種類は、「通常タイプ」が 63.3%と最も高かった。
- ・原因は、「保護者が目を離してしまった」が 33.2%と最も高く、次いで「歯をみがく姿勢が悪かった」が 28.6%、「くわえたまま移動しない、歯ブラシで遊ばないなど、子供に注意していなかった」も 28.6%であった。
- ・製品についての相談・報告については、「報告しなかった」が 87.2%と最も高かった。また、「報告しなかった」を除くと、「販売店・販売サイト」が 8.2%と最も高かった。

⑤ 子供の歯みがき事故に対する意識

- ・子供の歯ブラシの取り扱いについては、「とても危ないと感じている」は 20.3%、「多少は危ないと感じている」は 49.9%であった。
- ・子供の歯ブラシによる事故や重症事例の認知状況については、「事故が起きていることも、中には重症事例があることも知っている」は 61.3%、「事故が起きていることは知っているが、重症事例があることは知らない」は 23.6%であった。
- ・子供の歯みがき事故を知った経緯は、「テレビ」が 36.5%と最も高く、次いで「インターネットのニュース」が 27.1%であった。
- ・歯ブラシのパッケージの注意表記については、「注意表記を確認している」は 34.4%、「注意表記があることは知っているが確認していない」は 32.7%、「注意表記がない、確認したことがない」は 32.9%であった。
- ・子供の歯ブラシの安全性についての改善点、不安や疑問など感じていること、事業者（メーカーや販売店など）や行政への要望は 206 件あり、「安全性に配慮した製品改良（64 件）」に関する内容が最も多く、次いで「親の注意・配慮を重視（32 件）」、「注意喚起・啓発（31 件）」であった。